

小学校道徳教科書における「我が国や郷土の文化」  
— 日本の民謡に着目して —

鈴木 慎一郎

Japanese and Local Cultures in Textbooks in Moral Education  
for Elementary Schools  
: Investigation of Japanese Folk Song

SUZUKI Shinichiro

地域学論集（鳥取大学地域学部紀要） 第15巻 第2号 抜刷

REGIONAL STUDIES (TOTTORI UNIVERSITY JOURNAL OF THE FACULTY OF REGIONAL SCIENCES) Vol.15 / No.2

平成31年 3月 20日発行 March 20, 2019

# 小学校道徳教科書における「我が国や郷土の文化」

- 日本の民謡に着目して -

鈴木慎一郎\*

Japanese and Local Cultures in Textbooks in Moral Education for Elementary Schools:  
Investigation of Japanese Folk Song

SUZUKI Shinichiro\*

キーワード：小学校道徳教科書，我が国や郷土の文化，日本の民謡，《YOSAKOI ソーラン》，郷土愛

Key Words: Textbooks in Moral Education for Elementary Schools, Japanese and Local Cultures, Japanese Folk Song,  
“YOSAKOI SOURAN”, Love for one's home

## はじめに

本稿の目的は、小学校道徳教科書における「我が国や郷土の文化」に関する取り扱いを整理、検討することである。

2006（平成 18）年、教育基本法が改正され、前文に「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進」、第二条第五項に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が追加された。これを受け 2007（平成 19）年、学校教育法も改正され、第二十一条の義務教育の目標として「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と文化を愛する態度を養う」ことが追加された。また、2008（平成 20）年告示の小学校学習指導要領の道徳教育の目標において「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る」が加わった<sup>1</sup>。

2014（平成 26）年に設置された、道徳教育専門部会では「道徳に係る教育課程の改善等について」答申を行った。この答申を踏まえ、2015（平成 27）年に学校教育法施行規則を改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学

部・中学部学習指導要領の一部改正の告示を公示した。改正小学校学習指導要領は、2015（平成 27）年度から移行措置が行われ、2018（平成 30）年度から全面実施されている。

これまでに文部科学省は、2002（平成 14）年に『心のノート』を作成し、小中学校に配布していた。2014（平成 26）年には『わたしたちの道徳』に改められ、副教材は存在した。今回、「特別の教科」となったことに伴い、検定教科書が導入され、2017（平成 29）年、8社の教科書が検定に合格し、2018（平成 30）年度から使用されている。

古川雄嗣は、教育出版と光文書院の小学校道徳教科書を比較し、「愛国心」の取り扱いについて分析した<sup>2</sup>。教科書の執筆者から、教育出版はいわゆる右派・保守派の立場、光文書院はいわゆる左派・進歩派の立場と区分し、「愛国心」の取り扱いに温度差があることを指摘する。では全 8 社ではどのような傾向があるのであろうか。

ところで音楽の授業において「それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうた」が大切にされてきたが、2017（平成 29）年告示の小学校指導要領では「我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう」という一文が加筆され<sup>3</sup>、情意面の指導も求められるようになり、道徳科との関連が強化されている。道徳教育や愛国心は、戦後の教育において議論が分かれ、現在でも多様な意見が存在する。本

\*鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース

稿では紙幅の関係もあり、この議論には踏み込まず、客観的に道徳教科書における「我が国や郷土の文化」に関する取り扱いを整理する。

研究の方法としては第一に小学校道徳教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に関する教材を整理する。第二に日本の民謡に着目して、教材分析を行う。

## I. 道徳教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

小学校道徳教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教

育みらい、廣済堂あかつきの8社から発行されている。まずは道徳教科書8社において「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」がどのように取り扱われているのかについて整理したい。

表1は第1学年及び第2学年の道徳教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を取り扱った主題を一覧にしたものである。「民謡」「音楽」「祭り」について扱われている場合、「○」で示している。小学校学習指導要領では「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと」と規定される<sup>4</sup>。

表1の通り、第1学年及び第2学年では、民謡については取り扱われていない。

表1 第1学年及び第2学年の教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

| 発行  | 年 | 主題                        | 民謡 | 音楽 | 祭り | 備考     |
|-----|---|---------------------------|----|----|----|--------|
| 東京  | 1 | にちようびのさんぽみち               |    |    |    |        |
|     | 2 | ながいながいづがくろ                |    |    |    |        |
| 学校  | 1 | むかしあそび                    |    |    |    |        |
|     | 2 | もっと知りたい、わたしの町             |    |    |    |        |
| 教育  | 1 | 日本のぎょうじ<br>※がんばれまこべえ      |    |    | ○  |        |
|     | 2 | 日本のたから富士山<br>※あがれ、大だこ     |    |    | ○  |        |
| 光村  | 1 | にほんのあそび                   |    |    |    |        |
|     | 2 | おせちのひみつ                   |    |    |    |        |
| 日本  | 1 | はしれ、さんりくてつどう<br>うつくしい、わがし |    |    |    |        |
|     | 2 | ぎおんまつり<br>花火にこめられたねがい     |    | ○  | ○  | 博多どんたく |
| 光文  | 1 | まちたんけん<br>もみじがり           |    |    |    |        |
|     | 2 | ぼくのまちも、ひかっている！<br>かいらんばん  |    | ○  | ○  |        |
| 学研  | 1 | 大すき、わたくしたちの町              |    | ○  | ○  | 箏、三味線  |
|     | 2 | 大きくなあれしあわせになあれ            |    |    |    |        |
| 廣済堂 | 1 | 目じるしの木                    |    |    |    |        |
|     | 2 | ぎおんまつり<br>楽しいお正月          |    | ○  | ○  | 博多どんたく |

凡例 東京：東京書籍、学校：学校図書、教育：教育出版、光村：光村図書、日本：日本文教出版、光文：光文書院、学研：学研教育みらい、廣済堂：廣済堂あかつき。※：補充教材。

表2は第3学年及び第4学年の一覧である。小学校学習指導要領では「我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと」と規定

される<sup>5</sup>。民謡ではないが、教育出版の第3学年において沖縄県の《エイサー》が取り上げられている。

表2 第3学年及び第4学年の教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

| 発行  | 年 | 主題                                                                                        | 民謡 | 音楽 | 祭り | 備考          |
|-----|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|-------------|
| 東京  | 3 | ぼくのおべんとう<br>ふるさとのいいとこさがし                                                                  |    | ○  | ○  | 神楽          |
|     | 4 | ふろしき<br>ふるさとを守った大イチョウ                                                                     |    |    |    |             |
| 学校  | 3 | おばあちゃんのおせち                                                                                |    |    |    |             |
|     | 4 | 荘川桜                                                                                       |    |    |    |             |
| 教育  | 3 | エイサーの心<br>わたしの見たニッポン<br>※昔からの味をつたえる野さい<br>※お祭りにこめられている思い                                  | △  | ○  | ○  |             |
|     | 4 | 日本人が世界に広めたすごいもの<br>やっべし<br>※かことげんざいがともに生きる町ー川越<br>蔵造りー<br>※生がいを通じてわたくしには歌があった<br>ー東北うたの本ー |    | ○  | ○  |             |
| 光村  | 3 | ふろしき                                                                                      |    |    |    |             |
|     | 4 | 祭りだいこ                                                                                     |    | ○  | ○  | 山車のお囃子      |
| 日本  | 3 | ふろしき<br>「おもてなし」ってなあに                                                                      |    |    |    |             |
|     | 4 | お父さんのじまん<br>浮世絵                                                                           |    |    | ○  |             |
| 光文  | 3 | キツネおどり<br>ぼくは太郎山<br>こまったときは、おたがいさま                                                        |    | ○  | ○  | 大分          |
|     | 4 | ねがいをつみ上げた石橋<br>かつおぶし                                                                      |    |    |    |             |
| 学研  | 3 | 心をつないだ合言葉<br>にんじんのかざり切り                                                                   |    |    |    |             |
|     | 4 | たな田が変身<br>不思議なふろしき                                                                        |    |    | ○  |             |
| 廣済堂 | 3 | 村をすくった「長十郎なし」<br>ふろしき                                                                     |    |    |    |             |
|     | 4 | ふるさとにとどけ、希望の舞ー羽生結弦ー<br>日本の伝とう文化                                                           |    | ○  |    | 歌舞伎、人形浄瑠璃、能 |

表3は第5学年及び第6学年の一覧である。小学校学習指導要領では「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」と規定される<sup>6</sup>。

民謡に関しては、教育出版の第5学年と光文書院

の第6学年に《YOSAKOI ソーラン（節）》、また民謡そのものではないが、教育出版の第6学年の補充教材の中でアイヌの「口承文芸（ユーカラ）」が取り上げられる。

表3 第5学年及び第6学年の教科書における「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」

| 発行 | 年 | 主題                   | 民謡 | 音楽 | 祭り | 備考 |
|----|---|----------------------|----|----|----|----|
| 東京 | 5 | 正月料理<br>親から子へ、そして孫へと |    | ○  | ○  | 神楽 |
|    | 6 | 白神山地                 |    |    |    |    |

|     |   |                                                                              |   |   |   |             |
|-----|---|------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|-------------|
|     |   | 新しい日本に～龍馬の心                                                                  |   |   |   |             |
| 学校  | 5 | 土俵を造る—土俵築—<br>ちんもくのメッセージ                                                     |   |   |   |             |
|     | 6 | 小石丸がつなぐ千年の糸<br>米百俵                                                           |   |   |   |             |
| 教育  | 5 | 志高く、今を熱く生きる<br>思いをつないで—YOSAKOI ソーラン—<br>※世界文化遺産、姫路城を守る<br>※下町ボブスレー—町工場のちょう戦— | ○ | ○ | ○ |             |
|     | 6 | 祖国にオリンピックを<br>米百俵<br>※西陣織を受けつぐ—苦境を乗り越えて—<br>※アイヌのほこり                         | △ | ○ |   |             |
| 光村  | 5 | 曲げわっぱから伝わるもの<br>おおきに、ありがとう                                                   |   |   |   |             |
|     | 6 | ようこそ、菅島へ!                                                                    |   |   |   |             |
| 日本  | 5 | 和太鼓調べ<br>美しい夢—ゆめびりか—                                                         |   | ○ |   |             |
|     | 6 | ぼくのお茶体験<br>天下の名城をよみがえらせる—姫路城—                                                |   |   |   |             |
| 光文  | 5 | シンボルマークにこめられたものは<br>世界の文化遺産                                                  |   |   |   |             |
|     | 6 | お茶の心<br>いちばん近い自然「里山」<br>これが日本<br>町おこしプラン                                     | ○ | ○ | ○ | 《ヨサコイソーラン節》 |
| 学研  | 5 | 美德を守る人<br>もう一つの塔                                                             |   |   |   |             |
|     | 6 | 古きよき心<br>大みそかの朝に                                                             |   |   |   |             |
| 廣済堂 | 5 | 日本のよさを知って<br>時計台の鐘                                                           |   |   |   |             |
|     | 6 | ヤリガンナー—西岡常—<br>高らかにひびけ                                                       |   | ○ | ○ | 気仙町けんか七夕    |

以上、民謡に関して、《YOSAKOI ソーラン（節）》が教育出版の第5学年と光文書院の第6学年に取り上げられていることが明らかとなった。関連するものとして、教育出版の第3学年に《エイサー》、第6学年にアイヌの「口承文芸（ユーカーラ）」が扱われる。《ソーラン節》と《エイサー》に関しては、体育科の第5学年及び第6学年の「表現運動」の中で「日本の民踊」の教材としても示されている<sup>7</sup>。音楽科においては《ソーラン節》が共通教材の指定を受けたことはないものの、教育芸術社、教育出版の全2社の音楽教科書において主要な教材として取り扱われている<sup>8</sup>。日本の民謡を一切取り扱わない出版社もある中、教育出版は積極的に掲載している。

では次項においては道徳教科書において唯一掲載されている《YOSAKOI ソーラン》について詳細に検

討していきたい。

## II. 「思いをつないで—YOSAKOI ソーラン—」の分析

### 1. 「YOSAKOI ソーラン祭り」

《YOSAKOI ソーラン》については、光文書院の第6学年と教育出版の第5学年の教科書に掲載されている。ただし、光文書院については、「町おこしプラン」という主題名で、「ゆるキャラグランプリ」や「B-1グランプリ」等と並んで、町おこしプランの一例として紹介されるに留まっている<sup>9</sup>。

一方、教育出版では「思いをつないで—YOSAKOI ソーラン—」という主題で、《YOSAKOI ソーラン》に焦点を当てた学習となっている<sup>10</sup>。「YOSAKOI ソーラン祭り」が札幌市において6月に開催されるという紹介の後、以下の父と娘の会話が始まる。

「ひな、もう、運動会の YOSAKOI ソーランの練習は始まったかい。父さんもおどったことがあるんだよ。」

「うん、鳴子も用意したよ。」

「そうかい。この前の電話で、おじいちゃん、今年も楽しみにしているっていったぞ。」

「でも、おじいちゃんときは、ソーラン節だったって。YOSAKOI ソーランとはちがうのかなあ。」

父は《ソーラン節》について次のように教える。

今から百五十年ほど前から、北海道の日本海側の積丹半島や余市・小樽・留萌・稚内えん岸などに、春になると海面が真っ白になるほどニシンの大群が産らん（さんらん）にやってきてそれが「群来」とよばれました。そのニシンをとる漁のときに歌われていたと伝えられているのが、民謡《ソーラン節》です。

近年、ニシンが減り、漁もさかんでなくなりましたが、《ソーラン節》は、「船をこぐ」「あみを投げて引く」などの力強いふりつけとともに、はん栄再来の願いをのせて、道内をはじめ他の地いきに広がっていったそうです。

そして以下の展開となる。

「ひな、父さんといっしょに、ソーラン節を歌っておどってみよう。」

「父さん、今の YOSAKOI ソーランと似ているね。」

「そうだよ。それはね…。」

父は《YOSAKOI ソーラン》が生まれたときのことを次のように話す。

1991（平成3）年、北海道大学の学生が、病気の母を見まいに高知市をおとずれました。そのとき、大好きな「よさこい祭り」をテレビで見て、病気である自分自身を元気づけている母のすがたに学生は心を打たれました。鳴子を手におどる祭りの熱気に深い感動を覚えたその学生は、「北

海道でも、だれでも参加できるお祭りをしてみたい。」と願ったそうです。

5人の学生で組織した学生実行委員会のよびかけに、学生だけでなく大人やき業も賛同しました。

よく年の1992年6月、「よさこい祭り」のやくだと北海道で親しまれてきた《ソーラン節》とゆう合した新しい祭り、「YOSAKOI ソーラン祭り」がたん生（たんせい）しました。その第1回には10チームが参加し、20万人の観客が声えんを送りました。この祭りは、回を追うごとに勢いを増し、20回をこえた現在では全国各地や海外から、参加者約3万人、観客200万人をこえる人々が集まるほどに成長しました。

この学生は、現在、参議院議員の長谷川岳（1971-<sup>がく</sup>）である。長谷川は愛知県出身で、愛知県立千種高等学校卒業後、1990（平成2）年に北海道大学経済学部へ入学する。1991（平成3）年、大学2年のとき、母親は転移性のガンを患い、医学部の学生であった兄の勧めで、高知医科大学附属病院（現、高知大学医学部附属病院）に入院していた<sup>11</sup>。夏休みに入った8月に高知を訪れ、次のように振り返る<sup>12</sup>。

通常だと学生旅行をしたり、留学をしたりという多感な時期に、母の病院で2週間も3週間母の病気を診ているという部分で、非常に鬱憤が溜まっていたということがありました。一方でよさこい祭りを見たときの生の躍動感という部分、生と死という部分のコントラストは自分の中ではものすごくはっきり浮き彫りになったのです。よさこい祭りについては、躍動感や生命力という部分で、今でも一番感激したお祭りです。

北海道に戻ってからも、「よさこい祭り」の衝撃は忘れられず、「よさこい祭り原案」を作成して、12月初旬、高知県北海道事務所を訪れ、熱意が伝わり、協力を得ることができた<sup>13</sup>。

ここで「よさこい祭り」について概観しておきたい<sup>14</sup>。1950（昭和25）年、「南国高知産業大博覧会」では、《よさこい節》<sup>15</sup>を改良し、「新ヨサコイ踊り」が披露された。1954（昭和29）年には「よさこい祭り」へと発展し、武政英策（1907-82）によって《よさこい節》をベースにした《よさこい鳴子踊》が作曲され、「鳴子」を両手に持って踊ることが考案された。鳴子を採用したのは、当時、都市対抗野球の高知県チーム応援団が使用していたからである<sup>16</sup>。音

楽に関しては表4に示す通り、かなりの変容がみられる。内田忠賢は「元気で大規模な祭りに成長した半面、中高年層には違和感がある、参加しづらい祭りに変貌した」と指摘する<sup>17</sup>。

表4 「よさこい祭り」の音楽

| 年         | 回  | 音楽                                      |
|-----------|----|-----------------------------------------|
| 1954(S29) | 1  | 《よさこい鳴子踊》                               |
| 1957(S32) | 4  | 伴奏がレコードから特別編成のバンドや専門の地方車に               |
| 1958(S33) | 5  | マンボ調登場                                  |
| 1959(S34) | 6  | 《南国土佐を後にして》大ヒット                         |
| 1970(S45) | 17 | 和太鼓をサンバのリズム打つ                           |
| 1976(S51) | 23 | エレキバンド、ブラスバンド伴奏の増加                      |
| 1978(S53) | 25 | 大音量の伴奏合戦展開                              |
| 1980(S55) | 27 | 全チームバンド生演奏で大音量                          |
| 1981(S56) | 28 | 統一音楽であった追手筋本部競演場の踊りが解禁となり自由化に拍車がかかる     |
| 1982(S57) | 29 | ロック、サンバ調増加。大音量                          |
| 1983(S58) | 30 | ロック、ディスコ調全盛。ジャズダンス初登場                   |
| 1985(S60) | 32 | ジャズダンス風増加                               |
| 1986(S61) | 33 | サンバ、ロック調健在。伴奏音楽の大音量に検討プロジェクトチーム設置       |
| 1987(S62) | 34 | アップテンポ主流、ラップ調、ファンキー風踊り。曲には《よさこい鳴子踊》を入れる |
| 1988(S63) | 35 | レゲエも登場。深夜の大音量で警察出動                      |
| 1989(H元)  | 36 | ユーロビート                                  |
| 1990(H2)  | 37 | ランバダ登場                                  |
| 1991(H3)  | 38 | ブラジル・サンバチーム参加                           |
| 1992(H4)  | 39 | レゲエ、サンバ、ソウル、ロック、サルサ等健在。和太鼓導入増加          |
| 1993(H5)  | 40 | 定番化したロック、サンバ、デジタルサウンド三味線等多彩             |
| 1996(H8)  | 43 | 和風回帰、ロック、サンバ調下火                         |

注 『よさこい祭り40年』1994年、岩井正浩「よさこい鳴子踊進化論序説」『神戸大学発達科学部研究紀要』第8巻第2号、2001年から作成。

一方、「YOSAKOI ソーラン祭り」は、1992(平成4)年に北海道札幌市において開催される。基本ルールは「①手に鳴子を持って踊ること、②曲に《ソーラン節》のフレーズを入れること」の二つである<sup>18</sup>。祭りの魅力としては、「①参加する楽しさ、②見る楽しさ、③学ぶ楽しさ」が挙げられる<sup>19</sup>。第1回では、10チーム、1,000人の参加で、観客数は20万であったのに対し、2005(平成17)年の第14回では、334

チーム、43,000人の参加で、観客数は214万人と拡大している<sup>20</sup>。今や「さっぽろ雪まつり」と並ぶ北海道のイベントとして定着し、経済効果も200億円といわれる<sup>21</sup>。

なお、《南中ソーラン》も存在する。1984(昭和59)年頃、北海道稚内市立稚内南中学校(以下、稚内南中学校、と略記)では校内が荒れていた。1986(昭和61)年、《ソーラン節》を郷土芸能部の生徒が演奏したものの、不評であった。1988(昭和63)年、北海道苫小牧出身の民謡歌手の伊藤多喜雄(1950-)により、ロック調にアレンジされた《TAKIO ソーラン節》が発売される<sup>22</sup>。それを耳にした教員が伊藤に依頼し、《南中ソーラン》が誕生する。1993(平成5)年の第10回民謡民舞大賞全国大会ではグランプリ(内閣総理大臣賞)を受賞。1998(平成10)年、映画「稚内発 学び座 ソーランの歌が聞こえる」が作成され、1999(平成11)年にはTBS系テレビドラマの「3年B組金八先生第5シリーズ」でも取り上げられる。2003(平成15)年には、第54回NHK紅白歌合戦に出場する。

しかし、稚内南中学校のWebでは、「事実と物語は違う」と次のように説明する<sup>23</sup>。

事実と異なる映画が、「これは、実際にあった荒唐からの真実の再生物語である」(映画「稚内発 学び座 ソーランの歌が聞こえる」ポスターから)と宣伝され誤解が広がるのは残念ですが、教育と違う芸能、楽しませるエンタテイメントだから仕方のないことかもしれません。しかし、私たちには、学校の荒れから再生の事実と教訓を学び、次の世代がきちんと受け継いでいく責任があります。「ソーランで南中は良くなった」という事実と違う歴史、いや嘘は、南中の教育に関わった先生や保護者は決して口にしません。当時の生徒が事実を一番知っています。それは、大変に厳しかった学校再生の努力や誇りを否定し、さらに学校が落ちついて「南中ソーラン」を誕生させてきた努力も否定するという、2重の誤りを生むからです。

映画「稚内発 学び座 ソーランの歌が聞こえる」は、1989(平成元)年に発行された稚内市立稚内南中学校・稚内南中学校父母と先生の会『父ちゃんの家：理屈のない教育実践 南中創立40周年記念誌』に基づく。これには「ソーラン」の文字は登場しない。

朝日新聞では次のように掲載される<sup>24</sup>。( )内は

筆者加筆。

92年、当時の校長が民謡歌手の伊藤多喜雄さんから紹介された春日（寿升）さんに、生徒の指導を依頼した。ボランティアで九州からやってきた相手は、3年の男子15人。半数は「普通の生徒」だったが、残りは「まゆ毛のない、ツッパリ少年たち」だった。

当初は「普通の振り付け」を考えていたが、荒々しいオホーツクの海のイメージを表現した踊りを考えた。「ソーラン、ソーラン」「ドッコイショ、ドッコイショ」。アップテンポの伊藤さんの歌に合わせ、上半身を上下左右に激しく動かすダイナミックな踊りだ。

踊りの時間は約3分半だが、激しい踊りなので「最後まで踊るのは、自分との闘い。生徒も私も、真剣勝負だった」と春日さん。

ツッパリたちも練習に打ち込み、自分の家庭の事情などを春日さんに話すようになった。「出張指導」は延べ1カ月に及び、93年に東京であった民謡民舞大会で、生徒たちは日本一に輝いた。

稚内南中学校は、映画の撮影にも協力出演し、1998（平成10）年2月から3月にかけて、ロケが行われた<sup>25</sup>。

監督の斎藤耕一は「ソーラン節を取り入れただけで暴力は克服できない。地域全体の取り組み、特に、父親たちの参加が大きかったと思う。映画を見ているんなら立場の人に荒れる中学校の問題を考えてもらいたい」と語る<sup>26</sup>。

当時の校長の大家吉男は「斎藤監督が、ソーラン節の側面だけではなく、全体的な教育活動というものをきちんと評価していらっしゃるので安心して協力することになった」と述べる<sup>27</sup>。

稚内南中学校は「教育合意運動」によって再生されたのである<sup>28</sup>。「教育合意運動」とは「一つひとつの学校を基礎単位に、地域のすべての父母・住民と教職員、さらには教育関係者のあいだに教育への「合意」を形成することを媒介として、父母・住民が教育人権保障の手段を獲得し学校教育の機構と機能のみずから制御することをめざす住民教育参加運動と定義付けられる<sup>29</sup>。1985（昭和60）年4月、横山幸一が校長として着任し、教育合意運動を展開する。この取り組みについては、『親が変われば子は伸びる』に記されている<sup>30</sup>。着任早々、「すべての父母に「生徒指導協力員」としての来校をお願いする」という方針を実施した。6月には「いじめ実態調査」や「南中式基礎学力認定テスト」を実施し、実態を

把握した上で基礎学力の回復を図った。9月、新任臨時体育講師として着任した、田仲秀行の貢献は大である。着任当初、生徒の暴行に悩まされていた田仲は、横山校長から「田仲組」を作ってあの子たちをあんたの子分にしろ。そして遊んでやれ」の極秘指令を受け、実践を展開し、生徒たちの更正を見事に果たす。1985（昭和60）年度の横山や田仲らの実践については、『荒れ放題の「稚内南中学」を甦らせた教師たちの奮戦物語 学校再生』に描かれているが、『ソーラン節』は出てこない<sup>31</sup>。前述の通り、稚内南中学校において初めて『ソーラン節』が発表されたのは、1986（昭和61）年で、不評だった。そして1992（平成4）年、『南中ソーラン』が誕生した。つまり、稚内南中学校の荒れを最初に抑えた契機は、『ソーラン節』ではなく、「教育合意運動」であったのである。

1993（平成5）年から1997（平成9）年までは、「YOSAKOI ソーラン祭り」に招待出演していた<sup>32</sup>。長谷川は「昔の南中ソーランは…僕もそれに感銘を受けて、そのまま急行に乗って稚内に行って先生にお願いをしたのがきっかけです。びっくりしたのは、みんな剃ってしまって眉毛がないのです」と語る<sup>33</sup>。また、次のように振り返る<sup>34</sup>。

みんな素足で来ていました。踊ったあとに、足の豆が切れて、アスファルトに点々と血が付いたまま、素足で会場を移動していくというぐらいの、ある意味ですごさがあったのです。よさこいソーラン祭りとしては、これはすごいと。

（中略）

最初は20人ぐらいで来てもらったのですが、われわれの当時の大学生スタッフが、みんな怖がっていました。南中ソーランのメンバーが移動するのを見て、それぐらい一人一人に迫力があつたと思いますし、彼らがこれだけのエネルギーを持って南中ソーランの表現をするということ自体に驚きを感じました。

現行の教育芸術社の中学校第1学年の音楽教科書には、『TAKIOのソーラン節（TAKIO'S SOHRAN2）』が参考曲として掲載されている<sup>35</sup>。また、中学校の保健体育科のダンスにおいても、この曲で踊られることが多い<sup>36</sup>。

再び本文に戻ると、運動会当日の様子が次のように描かれる。



運動会の日、精いっぱいおどるわたしに祖父も、「ソーラン、ソーラン。」といっしょに声をかけ、「ひな、いいおどりだった。いいおどりだった。」と、なみだを流しながら何度もはく手してくれました。

わたしは、こみ上げてくるうれしさをかみしめながら、「たくさんの人の思いが受けつがれてきたYOSAKOIソーランを、これからもつないでいこう。」「身近にある行事や伝統を大切に、わたしにもできることをしていこう。」と強く心にちかいました。

このように祖父は感動の涙を流し、女子は喜びを味わうと同時に、継承を決意している。

ではどのように学校教育に普及していったのだろうか。1992(平成4)年の「第1回YOSAKOIソーラン祭り」には、札幌市立西野小学校が参加し、市内の小学校の運動会の種目にYOSAKOIソーラン踊りを取り入れるケースが増えた<sup>37</sup>。また、学生実行委員が卒業後、養護教諭として就職し、道南の学校にも広がった<sup>38</sup>。1997(平成9)年の第6回では、旭川市立末広北小学校の協力を得て、学校教材用ソーランが作成された<sup>39</sup>。音楽科の授業で曲を作り、体育科で踊りを覚え、家庭科で衣装を作り、図画工作科で鳴子を制作するといった取り組みを可能とした<sup>40</sup>。2001(平成13)年の第10回では、ハウスミュージック系の現代風にモデルチェンジされ、福島県岩瀬郡天栄村、兵庫県篠山市、札幌市の子どもの協力を得て、学校教材用ビデオが作成される<sup>41</sup>。さらには向山洋一とも対談し、TOSS(Teachers' Organization of Skill Sharing, 旧、教育技術法則化運動)とも組んで、2006(平成18)年、『YOSAKOIソーランの教え方・指導者用テキスト』が出版され、全国への普及が図られた<sup>42</sup>。

本文に続き、「学びの手引き」として、以下の4点が列記される。

#### 「学びの手引き」

- ① お父さんの話を聞いて、「わたし」はどのように思ったでしょう。
- ② 運動会でYOSAKOIソーランをおどったとき、「わたし」はどのようなことを思っていたでしょう。
- ③ どうして「わたし」はYOSAKOIソーランをこれからもつないでいこうと思ったのでしょうか。

- ④ みなさんの身近にある地いきのお祭りには、どのようなものがありますか。そのお祭りの歴史などを調べてみましょう。

運動会で《YOSAKOIソーラン》を発表することになり、祖父のときは《ソーラン節》だったことを父から聞き、歴史だけではなく、歌や踊りも教えられる。そのとき「父さん、今のYOSAKOIソーランと似ているね」と否定的な感想ではない。運動会の練習で《YOSAKOIソーラン》を踊っていたため抵抗感が少なかったかもしれないが、一般的に古臭い日本の民謡に対し、愛着を感じるの方が少ないと考えられる。稚内南中学校においても伝統的な《ソーラン節》は不評であった。筆者が小学校第4学年の児童に行った調査によると、「《貝殻節》を聴くのは好きか」に対し、「好き」が53%、「嫌い」が5%、「どちらでもない」が42%であった<sup>43</sup>。地方の国立大学附属小学校で実施したため、比較的古風なものに対して抵抗感が少ない傾向があり、「好き」が半数を占める。とはいえアニメソングやポピュラー音楽と比べると、日本の民謡に対して最初に抱く印象は今一つであることが多いように推察される。筆者のこれまでの実践経験に基づくと、一般的に図1に示す、意識の変容を辿ることが多い。

#### 出会い 否定的な反応

「日本の民謡は古臭いなあ」  
「古い言葉が多く、分からない」



#### 経験 やや肯定的な反応

「繰り返し聴いているうちに、慣れてきた」  
「歌ったり、踊ったりすると、おもしろい」



#### 発展 肯定的な反応、継承へ芽生え

「大切な日本の民謡を守っていきな」

図1 日本の民謡に対する意識の変容

つまり道徳科の学習においても、最初は日本の民謡に対して否定的な反応であったのが、あることがきっかけで意識が変わり、肯定的な反応へと変容し、継承に対する芽生えを抱くようになる教材の方が共感しながら学習を深めることができる。

次に継承の問題である。《ソーラン節》と《YOSAKOIソーラン》を挙げ、それぞれの歴史についても触れている点は評価できる。肯定的に「今のYOSAKOIソーランと似ているね」と回答しているものの、《ソー

ラン節》と《YOSAKOI ソーラン》の特徴はかなり異なる。「たくさんの人の思いが受けつがれてきたYOSAKOI ソーランを、これからもつないでいこう」と、ここでは《YOSAKOI ソーラン》の継承となっている。

継承に関しては、Authenticity（正統性）の点への配慮も求められ、日本の民謡の今後の在り方を議論する際の重要な課題でもある。鳥取市の浜村温泉では、三味線、尺八、太鼓で伴奏される《正調貝がら節》の他に、1987（昭和62）年にシンセサイザーでポップス調の《新曲貝がら節》が作成される。小学校第6学年の児童に「《正調貝がら節》と《新曲貝がら節》のどちらを受け継ぎたいですか」と質問したところ、《正調貝がら節》が54%、《新曲貝がら節》が11%、「どちらも受け継ぎたい」が22%、「どちらも受け継ぎたくない」が13%であった<sup>44</sup>。このように意見の分かれる事項で、日本の民謡の継承にとって重要な課題でもあり、どのような音楽のスタイルで継承していくのがよいかについて、道徳科の学習においても取り上げるとおもしろい。上記の「学びの手引き」を見る限り、国語科の読解の授業になりかねない課題となっている。「考え、議論する」道徳科の学習においては、「葛藤」が生まれる課題が必要不可欠である。本教材においても「《ソーラン節》と《YOSAKOI ソーラン》のどちらを受け継ぎたいですか」といった課題も盛り込まれると、議論が活発に展開されると予想される。

## 2. 郷土愛と愛国心

教育基本法では「我が国や郷土を愛する」と改正された。この文言については、自民党は「郷土と国を愛し」、公明党は「郷土と国を大切に」と対立した主張になった箇所である<sup>45</sup>。戦後の文部行政では「郷土愛は愛国心を経由して人類愛に通じるものであり、正しい愛国心は人類愛と一致する」という見解であった<sup>46</sup>。『心のノート』では「家族愛→学校愛→郷土愛→愛国心→国際貢献」という図式に基づいていた<sup>47</sup>。小学校学習指導要領では、第1学年及び第2学年で「愛着をもつこと」、第3学年から第6学年までは「国や郷土を愛する心」となっている。

清水幾太郎は「愛国心とは、自分の国家を愛し、その発展を願い、これを奉仕しようとする態度である」と定義する<sup>48</sup>。愛国心涵養の仕方については、愛国心が自然の感情だという見解とそうではないという見解とに分かれる<sup>49</sup>。佐伯啓思は後者の見解で、「愛国心」は決して自然なものではなく、その結果、ある意味では「上から」教育されるべきものという

ほかない。「自然」に育つものではないのであって、もし愛国心を価値と呼ぶなら、近代国家といえども決して価値中立的ではありえない」と主張する<sup>50</sup>。「パトリオティズム」については、「愛郷心」と「愛国心」という二重性を帯びてくるとし、次のように説明する<sup>51</sup>。

「パトリオティズム（愛国心）」は、もともと、先祖から継承された世襲財産という意味合いが強く、そうだとすれば、それらはまずは土地であり、そこに住むことによって愛着をもつことができ、先祖からの伝承と記憶を確保できるような場所であった。そして「パトリオティズム」とは、そのような場所として「国」を捉えようとするのである。確かにこのような「国」の捉え方は、「国民」の一体性を説こうとする「ナショナリズム」と異なっている。

文化に関しては、次のように説明する<sup>52</sup>。

「文化」の心象イメージが「パトリス」を構成している。これらは、実際にそれを経験したかどうかは別としても、心象イメージの中で「共通の経験」の基礎となってゆくだろう。こうして、「パトリス」は「愛国心」の土壌となる。この「パトリオティズム（愛国心）」をいっそう自覚的に「国民」の利害や関心へと高めたとき、そこに「ナショナリズム」が登場する。言い換えれば、「ナショナリズム」の背後には「パトリオティズム」があるといつてよい。スミスの言い方を借りれば、「ネーションのエスニック・オリジン（国民の民族的起原）」ではなく「ネーションのパトリオティック・オリジン（国民の郷土的起原）」とでもいうべきものであろう。同様に、「ナショナリズム」とは、その政治的な表明である「シヴィック（市民的）な側面と同時に「パトリオティック（愛郷的）」側面をもつことになる。

佐伯は愛国心教育を議論するに当たって「国をどのように理解するか」という論点を投げ掛ける<sup>53</sup>。小学校学習指導要領では次のように定義されている<sup>54</sup>。

「我が国」や「国」とは、政府や内閣などの統治機構を意味するのではなく、歴史的に形成されてきた国民、国土、伝統、文化などからなる

歴史的・文化的な共同体としての国を意味するものである。したがって、国を愛することは、偏狭で排他的な自国賛美ではなく、また、次の内容項目の「国際理解、国際親善」に関する指導と相まって、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって、国際親善に努めようとする態度につながっている点に留意する必要がある。

ところで古川は「パトリオティズム」「市民的・政治的ナショナリズム」「民族的・文化的ナショナリズム」に分類して、教科書分析を行い、この「思いをつないで—YOSAKOI ソーラン—」を「パトリオティズム」として位置付けた<sup>55</sup>。佐伯は「ある国の歴史的な伝統や文化や風土がそのままそこにあり、それらに自明のものとして囲まれているとき、人は、わざわざ「愛郷心」や「愛国心」を感じる必要もないであろう」と言及する<sup>56</sup>。パトリオティズムには「ある種の喪失感が付着する」とも言う<sup>57</sup>。ということは、日本の民謡は継承されにくい動向もあるため、パトリオティズムの情緒が伴いやすいということになる。本文ではニシン漁が衰退したことは出てくるが、民謡《ソーラン節》も継承されにくくなったという側面は直接的には出ておらず、「民謡が失われて残念」という感情にはなりにくいかと推察される。この本文を読む限り、北海道大学の学生であった長谷川の実行力の方がインパクトが強く、「公共の精神」や「努力と強い意志」ないしは母親を思う「家族愛」の内容項目の方が妥当であろう。小学校学習指導要領では「郷土での様々な体験など積極的に主体的な関わりを通して、郷土を愛する心が育まれていく」と解説する<sup>58</sup>。小学生の発達段階では、実際に地域のお祭りに参加したり、民俗芸能に触れたりする等の体験が重要である。「学びの手引き」では④に列記されている点である。郷土愛を育むためには、地域での体験ならびに地域を扱った教材が有効であると考えられる。

## おわりに

以上、小学校道徳教科書において《YOSAKOI ソーラン(節)》が、教育出版の第5学年と光文書院の第6学年に掲載されていることが明らかとなった。中でも教育出版では「思いをつないで—YOSAKOI ソーラン—」という主題で、《ソーラン節》の歴史に触れた上で、「YOSAKOI ソーラン祭り」の誕生の経緯が記され、運動会で踊った《YOSAKOI ソーラン》を継承

していきたいという強い誓いで締めくくられる。

では《YOSAKOI ソーラン》は「我が国や郷土の伝統と文化」として妥当なのだろうか。日本の民謡の変遷を振り返ると、大正期から昭和初期にかけて「民謡運動」が展開され、「新民謡」と呼ばれる、西洋音楽ともコラボすることの多い作品が流行した。上田誠二は「芸術文化」「学校文化」「大衆文化」に分類し、「大衆文化」に該当する新民謡と「学校文化」が対立した状況を指摘した<sup>59</sup>。今日の学校教育では、「大衆文化」と「学校文化」は対立しておらず、ポピュラー音楽等も教材化されている。しかし、音楽科における日本の民謡の学習に関しては、戦後当初はピアノ伴奏で西洋風の合唱で歌うという活動も見受けられたが、現在ではあまり行われていない。Authenticity(正統性)が配慮され、伝統らしさが追究されている。1958(昭和33)年、ベギー葉山によって歌われた《南国土佐を後にして》には《よさこい節》の旋律が明確であったのに対し<sup>60</sup>、《YOSAKOI ソーラン》では《よさこい節》はほぼ含まれていない。高知県に関係するのは「鳴子」だけである。鳴子が使用されたのも戦後からで、伝統性は薄い。音楽、祭り、文化は時代とともに変容する。ただし原点はどうであったのかという視点も大切にしたい。「貝がら節祭り」においても現在は《新曲貝がら節》で踊られているが、2015(平成27)年以降、《正調貝がら節》を鑑賞する機会が設けられている。

ところで西島央は「儀式唱歌に関しては、日常的に練習していつの間にか覚えたものであったり、儀式のたびに斉唱したものであったりしたわりには、具体的、有機的な記憶に乏しく、それを通して敬虔の念、愛国の精神を身につけたとはいえ、期待されたかたちで機能を果たしたとは言い難い」と言及する<sup>61</sup>。果たして日本の民謡はどのようなのだろうか。今後の課題としたい。

## 付記

本研究は、JSPS 科研費 JP17K04785 の助成を受けたものです。

## 注

- 1 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』2008年, p.24。
- 2 古川雄嗣「小学校道徳教科書における「愛国心」の取り扱いについて：教育出版と光文書院を事例として」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』第68巻第2号, 北海道教育大学, 2018年, pp.47-57。
- 3 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』2018年, p.129。
- 4 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』2018年, p.60。
- 5 同書, p.60。
- 6 同書, p.60。
- 7 文部科学省『小学校学習指導要領解説体育編』2008年, p.77。  
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編』2018年, p.148。
- 8 鈴木慎一郎「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集』第14巻第1号, 鳥取大学, 2017年, pp.126-128。
- 9 加藤宣行監修『小学道徳 ゆたかな心 6年』光文書院, 2017年, pp.180-183。
- 10 林泰成・貝塚茂樹・柿沼良太ほか『小学道徳5 はばたこう明日へ』教育出版, 2017年, pp.20-23。
- 11 坪井善明・長谷川岳『YOSAKOI ソーラン祭り』岩波書店, 2002年, p.17。
- 12 向山洋一・長谷川岳『新しい伝統に挑む』明治図書出版, 2007年, p.40。
- 13 北川泰斗『街は舞台だ』高知新聞企業, 1996年, pp.26-34。
- 14 よさこい祭り40周年記念誌実行委員会編『よさこい祭り40年』よさこい祭振興会, 1994年, pp.3-14。  
関連する研究は以下の通り。  
岩井正浩「よさこい鳴子踊進化論序説」『神戸大学発達科学部研究紀要』第8巻第2号, 神戸大学, 2001年, pp.211-224。  
高橋美樹「高知よさこい祭り前史にみるシンボル・イメージの創造：《よさこい節》の歴史的展開を通して」『高知大学教育学部研究報告』第67号, 高知大学, 2007年, pp.143-158。
- 15 「全国的に愛唱されている土佐の代表的民謡。但し農村の仕事唄がお座敷唄化したものか、最初からのお座敷唄かは未詳」  
町田嘉章・浅野建二編『日本民謡集』岩波書店, 1960年, p.454。
- 16 竹内勉『日本民謡事典Ⅲ 関西・中国・四国・九州』朝倉書店, 2018年, p.613。
- 17 内田忠賢「変化しつつける都市祝祭：高知「よさこい祭り」内田忠賢編『よさこい／YOSAKOI 学リーディングス』開成出版, 2003年, p.8。
- 18 YOSAKOI ソーラン祭り公式サイト  
<https://www.yosakoi-soran.jp/about.html>  
(2018年9月10日閲覧)
- 19 長谷川岳「YOSAKOI ソーラン祭り」の魅力とは」季刊『音楽文化の創造』vol.42, 財団法人音楽文化創造, 2006年, p.8。
- 20 矢島妙子『「よさこい系」祭りの都市民俗学』磐田書院, 2015年, p.63。
- 21 同書, p.58。
- 22 伊藤多喜雄オフィシャルサイト プロフィール  
<http://takiopro.com/profile.html>  
(2018年9月7日閲覧)
- 23 稚内市立稚内南中学校 南中ソーラン  
<http://www.nancyu.info/soran.html>  
(2018年9月15日閲覧)
- 24 「北九州の舞踊家、北海道で体当たり指導：稚内の中学モデル奮闘記の映画完成」朝日新聞（東京本社）夕刊, 1999年1月21日。
- 25 「荒れた学校、再生 全国へ稚内発：南中学校の試み 映画化」朝日新聞（北海道支社）夕刊, 1998年5月1日。
- 26 「荒れた中学再生映画に：ソーラン節も一役」読売新聞社夕刊, 1998年3月14日。
- 27 同上。
- 28 古野博明「教育合意運動の学校経営戦略」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』第85号, 北海道大学, 2002年, pp.36-39。
- 29 同書, p.27。関連する文献は下記の通り。横山幸一・坂本光男『室谷の教育合意運動とは』大月書店, 1990年。
- 30 横山幸一・坂本光男『親が変われば子は伸びる』明治図書出版, 1990年。
- 31 軍司貞則『荒れ放題の「稚内南中学」を甦らせた教師たちの奮闘物語 学校再生』小学館, 1999年。
- 32 1994（平成6）年と2001（平成13）年は参加していない。  
矢島, 前掲書, p.160。
- 33 向山・長谷川, 前掲書, p.82。
- 34 同書, p.83。
- 35 小原光一ほか『中学生の音楽①』教育芸術社, 2017年, p.47。
- 36 佐美俊輔・若原幸範「「南中ソーラン」の今日的意義と課題の検証①」『稚内北星学園大学紀要』第16号, 稚内北星学園大学, 2016年, pp.49-79。  
松尾千秋「学校体育における日本の民俗舞踊の取り扱い：「南中ソーラン」に着目して」『日本教科教育学会誌』第29巻第2号, 2006年, pp.1-9。
- 37 森雅人「たった一人が仕掛けた祭り：札幌「YOSAKOI ソーラン祭り」内田忠賢編『よさこい／YOSAKOI 学リーディングス』開成出版, 2003年, pp.23-24。
- 38 向山・長谷川, 前掲書, p.133。
- 39 坪井・長谷川, 前掲書, pp.122-123。
- 40 長谷川岳「YOSAKOI ソーラン祭り：異なる文化の融合から新しい文化を創造する」季刊『音楽文化創造』vol.39, 財団法人音楽文化創造, 2006年, p.42。
- 41 坪井・長谷川, 前掲書, pp.123-124。
- 42 YOSAKOI ソーラン祭り組織委員会・TOSS 体育

- 
- よさこいソーラン研究会編著『YOSAKOI ソーランの教え方・指導者用テキスト』明治図書出版、2006年。
- 43 鈴木慎一郎・大野桂「《貝殻節》の教育実践の現状と課題:鳥取大学附属小学校の2014年度の実践から」『地域学論集』第12巻第1号、鳥取大学、2015年、p.86。
- 44 上治美弥・岡西真理子・岸本彩香・山田彩奈・鈴木慎一郎「《貝殻節》の継承に関する調査報告」『地域教育学研究』8巻1号、鳥取大学、2016年、p.104。
- 45 社説「教育基本法「国を愛する心」でなぜいけない」読売新聞、2004年6月18日。
- 46 貝塚茂樹『戦後教育は変わるのか:「思考停止」からの脱却をめざして』学術出版会、2008年、p.175。
- 47 馬場久志「『心のノート』考:役割としての愛国心」『教育』第54巻第3号、2004年、pp.27-29。
- 48 清水幾太郎『清水幾太郎著作集8 愛国心・「匿名」の思想 他』講談社、1992年、p.18。
- 49 市川昭午「解説」市川昭午監修・編集、貝塚茂樹・朴澤泰男編『資料で読む戦後日本と愛国心 第3巻 停滞と閉塞の時代 1986~2006』日本図書センター、2009年、p.28。
- 50 佐伯啓思『日本の愛国心:序説的考察』中央公論新社、2015年、pp.153-154。
- 51 同書、pp.123-124。
- 52 同書、pp.136-137。
- 53 同書、p.144。
- 54 文部科学省『小学校学習指導要領 特別の教科道徳編』、前掲書、p.61。
- 55 古川、前掲書、p.52。
- 56 佐伯、前掲書、pp.132-133。
- 57 同書、p.132。
- 58 文部科学省『小学校学習指導要領 特別の教科道徳編』、前掲書、p.60。
- 59 上田誠二「音楽教師から敵視されたメロディの教育化:「東京音頭」から「建国音頭」へ」『教育学研究』第74巻第1号、日本教育学会、2007年、pp.13-27。上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか:教育と音楽の大衆社会史』新曜社、2010年、pp.201-230。
- 60 太田省一『紅白歌合戦と日本人』筑摩書房、2013年、pp.52-53。
- 61 西島央「五・三 記憶からたどる儀式の中の音楽とその社会的機能」本多佐保美・西島央・藤井康之・今川恭子編『戦時下の子ども・音楽・学校:国民学校の音楽教育』開成出版、2015年、p.355。